



嘉吉記

1755  
江戸





嘉吉記

嘉吉元年辛酉六月廿四日赤松滿祐教祐弒于將軍義教公七月細川成之山名持豊赤松貞村武田信繁發兵入播磨持豊攻圍城山數十月芻糧俱竭九月十日滿祐自害彦次郎教祐出奔



赤松赤松後醍醐の命に應じて播磨を攻落し忠切援弒りしは  
その賞に於ては世の重き事なりと思ふ如くおぼしめし  
以軍赤松入るるより号氏と討ちたりと云ふに内記書後あり  
貞祐と云ふは竹下の存義貞祐は流石忠義なり建氏二  
年十二月十二日貞祐は播磨赤松丹波玉の春日部の子と云ふ  
水教書と云ふは赤松貞祐資三男別祐播磨孫孫に於て牧彦の  
子也と云ふは輒々号氏赤松都よりと云ふは是より教十の石彦の

合戦赤松一家の者殊に切ありしは、能資子孫は玉と稱し、光元  
また相續す、則祐又才智、河は勝られ、海舟因幡毎玉賜し、自花  
一門の事、公恩、所は、播磨、出化と稱す、以教書、慈子あり、物形、  
勝定院の、以時、自花、一子、故、後、書、治、別、共、子、七、人、あり、末、子、以、由、年  
持、貞、と、云、者、あり、男、色、の、爲、と、云、く、海、舟、播、磨、出、化、と、云、玉、と、賜、り、  
治、の、輕、恩、と、治、り、て、雅、言、と、治、す、海、舟、ひ、り、れ、以、義、の、子、細、由、來、  
人、皆、目、を、側、め、り、る、と、云、れ、中、の、爲、治、な、れ、以、義、と、申、す、人、も  
あり、し、以、赤、松、之、孫、を、更、海、社、一、族、の、和、解、な、れ、と、云、く、法、大、名  
と、治、す、以、河、治、等、り、る、罪、科、造、れ、難、な、れ、以、下、初、を、成、さ、れ、持、貞  
殿、と、知、り、勝、定、院、後、斯、の、爲、治、な、れ、海、社、な、る、爲、以、當、也、と  
云、く、以、海、社、思、角、と、云、く、以、生、治、と、云、く、以、思、意、  
海、舟、以、河、子、判、後、入、り、以、具、と、改、名、以、己、宿、所、と、云、く、以、播、磨、の

以、河、中、り、再、事、公、の、事、な、き、所、と、云、も、り、播、磨、院、後、以、權、り、以、  
也、の、事、と、思、な、れ、以、法、大、名、治、の、河、治、と、云、く、以、治、な、れ、又、判、後、深  
云、の、事、と、云、り、以、河、友、人、と、云、那、と、思、言、以、河、以、河、例、等、り、  
聖、二、長、元、の、正、月、十、八、日、葬、逝、以、玉、以、聖、永、享、元、の、義、教、持、年、  
以、一、天、下、の、法、大、名、我、と、云、上、治、一、等、し、も、る、赤、松、入、り、以、具、と、上、治  
一、以、河、公、の、号、と、勤、心、一、門、の、内、是、よ、さ、り、る、以、量、の、人、な、れ、以、播、磨  
播、磨、出、化、と、以、貞、又、子、と、云、り、る、以、後、赤、松、伊、豆、等、自、村、男、色、の、爲、比  
以、河、以、河、と、云、り、て、是、と、云、人、と、思、言、一、と、治、り、る、以、兄、の、以、河、赤、松、家、の、稱  
く、以、河、以、河、治、別、七、番、目、の、末、子、以、河、と、云、り、ら、れ、ゆ、り、る、以、河、れ  
以、河、伊、豆、等、自、村、の、能、資、子、孫、な、れ、以、治、く、以、赤、松、の、家、治、と、治、り、  
者、と、云、人、な、り、と、云、り、以、河、と、云、り、以、河、と、賜、り、人、以、教、書、と、云、  
成、下、中、以、河、等、り、海、社、入、り、同、子、以、河、等、り、教、治、な、れ、と、云、り、  
期

てふ時ありし一足り割割人<sup>上</sup>流り付、割割人<sup>上</sup>よりそのあり  
流報と企義教と教し、もんと笑ひることを為し、りし其  
ふ切報治よて世より、海前春光、因極の刀と二百腰打  
や三百人は、五一切の定め、高子の鴨子流し、あまふと流るる  
体は、同よの趣と、中上二日月、其の如く、中りる、我教がも、是り、あ  
り、す、た、り、も、人、あ、り、て、あ、松、亭、入、り、せ、あ、小、壘、意、以、の、あ、  
負、藤、と、及、り、一、流、の、流、ま、て、り、ま、あ、一、つ、ま、我、教、一、人、真、り  
流、一、一、歌、と、上、り、あ、あ、こ、一、一、流、能、と、の、初、と、て、鷲、の、羽、と、は、能  
さ、中、入、付、よ、あ、て、付、り、一、一、思、ひ、あ、る、ま、如、く、馬、屋、の、傳、馬  
と、ま、り、と、紋、つ、屋、中、に、あ、り、れ、ば、馬、と、と、あ、す、一、一、ず、り、に、  
さ、と、あ、り、あ、り、と、一、一、二、百、人、の、若、者、は、石、松、と、姓、の、屋、中、の、人、と、  
一、人、も、の、す、ま、一、一、切、と、あ、り、あ、り、る、り、れ、ば、板、合、と、

我、り、ん、と、も、さ、す、石、松、つ、や、絶、入、り、あ、り、我、先、と、一、一、集、地、と、あ、り  
之、逆、出、人、と、す、り、斗、り、る、あ、松、と、付、た、ん、と、志、あ、る、ま、の、あ、り、り、  
斯、波、義、康、築、地、と、形、城、一、一、幸、令、と、持、り、り、流、大、名、是、と、あ、り、り、  
あ、松、人、と、あ、り、り、一、一、た、れ、あ、り、り、一、一、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、  
と、集、め、り、り、と、あ、り、り、と、あ、松、亭、一、一、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、  
あ、松、亭、定、て、流、大、名、あ、り、り、一、一、合、戦、一、一、て、勝、と、切、人、と、持、り、り、  
一、一、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、  
中、向、と、の、侍、と、酒、刻、り、り、あ、油、小、路、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、  
あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、  
付、り、の、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、  
氏、田、大、膳、と、美、法、繁、一、一、揚、子、一、一、山、名、大、馬、一、一、智、持、豊、同、流、理、と、美、熙、高、同、  
あ、松、亭、一、一、合、戦、人、と、勝、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、あ、り、り、と、

殊も奪らんやよの機分なれはけりかかては縁なき大山の  
 あり國中一切に入城のじふ西福寺の上よりさき山を隔て  
 陳と元帥を交わす因幡の海を率一擲とせりしは  
 合名河を渡り城山の麓に陣を敷き十重十巻の厚巻日影も  
 石砲攻入を拒げしは城中ありし見透し其上を擲し其れ九  
 月十日大猪を交海船入り性自害しぬ城中云々知れしは乃  
 者腹を切る具教と名知子息を産出并教社へのるる逐電し  
 人許知しつゝありし預備京都上毛軍の極をやり大子一向  
 ひらる瀧波を赤松と知者より具負りしは瀧波以て陳を取  
 播列の月一人七軍隊と不入貞村に繁身を操り貴方へ大なる  
 は是より陳と居しぬ我々の別義りしは先よりしつと  
 再三と申ししは瀧波を曾て許さず其月播列の山名満祐を

討れ城を屠りしは太田軍云々播磨路一足踏入れし句滿歌  
 旗をも不見ぬ陳より酒林首魁のよと急具退去を厭せん  
 とりや大右衛門の賜号ありしを少一山名を名する重の大切を  
 播磨をとりし同族を交わす相持し海をわたり  
 舟中より山名一家の人を看と双り人なりし見し赤松河原  
 ちいさ君の敵とつひ自敵とつひ見し山名急の播磨よ急をわたり  
 は伊豆と霧一山名の山教書をとりしより起れ満祐と其よ  
 天を戴く一人や瀧波をよ交て一合戦ももてその山名の由を  
 陳にやせしこれよりより軽重ありし瀧波を是水を通し  
 下にお遠く死すしそれ程の思入ありし一人二人軍中を抜  
 けて敵陣を越くるもなるし命を合し名を極るし尋ね敵  
 場より人々誡稱也是はおろけず二月廿四日逐腹を切りし

て就況や海松退治より多来中魚りし山名を攻めて我々の潰  
敗を支へりてと暗悲とて日を過し、臆病のあり、愚蒙乃  
極あり、但先山不降り、恩恵を以て、眞討りと世譽て誇り、り、公方  
より別より、は身程もあつて、おれ計をそ、大名準授の内判と誇り、  
四藏の元考の、勤む、義に、六月七日、境版と勤め、表重の式  
程と、威あれ、は、の、境版の精力と、播、よ、出、  
満社、向、一矢射た、ん、お、の、式、程、も、胸、と、と、流、人、の  
流、云、止、り、り、り、た、流、道、閑、居、の、身、も、り、て、聲、中、に、流  
細、り、り、り、病、は、後、に、死、り、り、

二年壬戌正月 義勝元服一条持基公加冠任少将叙従四位  
下任征夷將軍畠山持國為管領依為義勝幼弱專行天下政務  
此年多武卒大織冠像鳴動破裂預依示凶事書之 立赤松家

三年癸亥 宗貞盛為對馬島主與朝鮮有約條 朝鮮人來朝  
義教喪自義滿時至今聘問不絶 義教贈大相國 赤松三郎  
自害

貞村病死の後赤松の一族一人も形は治人なり、四藏の家を以て代り  
絶す、まよあ、不、去、手、の、去、赤、松、播、磨、入、居、り、子、三、郎、内、建、合、殿、  
付、死、す、満、朝、孫、之、田、切、思、石、り、り、や、敏、光、あり、は、國、國、を、れ、り、  
地、へ、来、り、流、い、り、り、と、播、磨、守、人、も、三、郎、と、進、め、務、列、下、向、一、播  
磨、の、國、侍、と、り、起、り、も、も、通、り、あ、計、り、有、馬、形、も、自、害、せ、り、

文安元年甲子  
二年乙丑 義政任征夷將軍初名義成  
三年丙寅  
四年丁卯 紀州宮方蜂起畠山擊走之獻首數十級渡大略

五年戊辰 細川勝元為管領

寶徳元年己巳 義政元服于時十五歳 細川勝元加冠任少將

叙従四位下 八日月本義政任参議 關東無主自永享至文安年

中 騷亂無已上杉家臣長尾左衛門入道昌賢有賢才譽人皆兼其旨昌

賢曰關東一日不可無君主如聞持氏四男遊于信功令人迎之

持達京都伺天氣任昌賢請旨被下綸言元服名成氏幼名永任

少將叙従四位下是稱鎌倉公方關東從是寧謐

二年庚午

三年辛未

亨徳元年壬申

二年癸酉

三年甲戌

細川成之立赤松彦次郎祐之彦五郎則尚為後山

名持豊合之持豊還但馬國

山名全吉本願の基と満祐と討ち合はるる一家として海軍播

磨化二子と成り武勇又世と蓋し是は對揚すべき大名と

なり管領と成るるにやと云ふ驕慢の氣持毎にありは將軍是

と雖もあつては細川清波と成るるにやと云ふ赤松彦次郎

祐之彦次郎則尚内は教光と蒙りおはせしなり山名全吉同お

持吉と細川と申也 赤松自願の恨中し親の敵の赤松と

云ふは赤松と申すは將軍山名と云ふは由頼と云ふは

赤松と云ふは山名と云ふは赤松の浮定あり十一月二日の夜山名軍兵と

百おあつたの邊におあつた山名全吉と云ふは押寄討果す一死に定り

細川勝元と山名全吉と争ひ上言ふは信功の由と約り

大衆あり全吉と討果すはよあつたと二日の夜逐電しなり一方の

先帝と頼朝より賜元逆電の上は彼の証成に止まり警備勝元  
 赤山と大業より居由中七、彼の家の人々池集りり角て得  
 軍の心憤り有りなり、合言以退治、之んで但馬五子王國  
 上落す、うす揚子、与教豊と残りて、至那の警備す、  
 ら依出合言、但馬一有り、赤松善房善房、合言追討め  
 たりと依い播磨、為一國人と依、一切て取らん、其友夜に  
 十二月廿七日、鎌倉成氏誅上杉右京亮憲忠、依為父讎敵也、  
 時上杉一家列、分長尾一族及鉾楠成氏不克而走古河、自是居  
 居古河

康正元年乙亥四月、赤松祐之則尚入播磨、五月山名持豊往  
 播磨、赤松祐之則尚不及挑戦而敗、祐之則尚自害、  
 赤松善房善房、善房則尚播磨、亦入國人と依、二子分り

一子、檀特山と保り國中と打延、一子、室山下持豊、  
 湯田大改豊、<sup>二平</sup>持豊有り、りると善房善房、大改よりて攻め  
 らんとす持豊これと守て四月の初播磨は、善房山、持と依  
 檀特山は持豊有り、りる歌と一責せ、大改、持と依、  
 之坂布、色る、そ、室山下、善房、大改、持と依、  
 予、善房、攻く、難き、由、と、持、と、依、坂布、と、依、  
 室山の家、と、持、豊、威、風、と、依、責、口、と、依、持、豊、と、依、  
 門、と、依、退、け、と、持、豊、と、依、一、致、と、  
 通、人、と、依、善、房、と、依、持、豊、と、依、善、房、と、依、持、豊、と、依、  
 残、身、と、依、善、房、と、依、持、豊、と、依、善、房、と、依、持、豊、と、依、  
 大、守、と、依、我、れ、と、依、退、散、と、依、善、房、と、依、持、豊、と、依、





る内府より細工と思ひし内室所教一帝りれこの  
諸勅令とて傳奉さるる御し玉一我朝の山實入洛ありて教  
先子細ありし一編命と下さるる見兼一古くは松  
族より傳と推察中村をより加つれり合はれ同志の者いそ  
松解人より活しし南朝も公とせしりて也て此同人のありし  
はこれよりなるも義教と執り其家後よりこれに執の傳を  
すべきと思召ありし中村をより加つれり合はれ同志の者いそ  
られりる山實は南朝一能見とせしり或は悉入て南帝と執り  
執りし二種の神定と取持て其いかりの古神十八の者も起り  
也と追志る山實と中村をより加つれり合はれ同志の者いそ  
より二種の神定と一回也其外の者も持りて其より内府  
一箇中より内府より室所教一系り角とせしり此歸と傳奉

少りる敷意斜ありしは此也師は某家後移瑞平しりる  
先子高者一雖も仍活符とて度勅許有る寛者七と改則も兼  
長保二年秋先の編名より教書と傳り此先國玉われし  
加賀五世玉編名より教書と傳り此先國玉われし  
りしりると思われし見をた傳射所為也と也或は此二系  
殿より幸若衆のありし貴族集一その海りし山名所流  
と遣り過切の振り切せりるその付切と捕り活し山名とせむ  
一其振りりしてこそ也也ぬ見をた傳射旧君は忠と云  
りれり帝王と侵す天罰よりりて討れりるこそ思ひしりけ  
後斯波家駿勅より天下の乱初り島山両家洋楯及び細川  
島山山名宿意也是て赤松逆し本五葉流しり



